

# 本道初導入の320列CTで 低侵襲・高画質の診断、看護師配置16人 で病院並みの夜勤3人体制目指す

医療法人春林会華岡青洲記念心臓血管クリニック（華岡慶一院長・木村千春看護部長、19床）が16年8月に国道36号沿いの豊平区美園地区に新規開設しました。診療所名の「華岡青洲」は先祖である江戸時代後期に活躍した外科医。記録に残るものとしては世界で初めて全身麻酔手術を成功させた業績を残しています。華岡慶一院長は華岡家9代目の医師として、青洲の医療理念を継承し、開業しました。

スタッフの教育レベルが高くCNもいるため循環器未経験者も採用

標榜科目は循環器内科と心臓血管内科。ベッド数は19床、うち1床はCCUに位置づけられる集中治療室になっており、フル装備の



木村看護部長（右）と村瀬看護師長

機器を備えています。

特徴は道内初導入の320列CTを用いた診断です。従来の造影剤による検査に比べ、低被曝で鮮明な高画像を得られます。診断をきちとつけてから、動脈硬化、心筋梗塞、狭心症などのカテーテル治療に臨みます。最新の血管造影装置を備えたカテーテル室を2室設置しています。

設計段階から看護部も参加し、患者の動線、療養環境、スペース確保など修正を加えながら進めました。病室は4床室2室、2人室が2室、個室7室の構成です。病室面積が広く、ベッド回りも広くとっています。患者の動線への配慮、ベッドサイドで処置を行う時などのスペースを確保するためです。2床室、4床室ともベッド間



に間仕切り家具を設置、多床室であってもプライベート空間を確保しています。

濃い茶系と白を組み合わせた壁など内装のカラーリングや間接照明が患者からは「落ち着いて入院できた」と好評です。エレベーターは機器を装着して上がって来る患者の安全を考慮し中の面積を広くしています。

カテーテル室自体もそうですが、患者が待つ前室も広くとって開放感を、また、家族控えスペースと病状説明する部屋をカテーテル室に近接して設置しています。

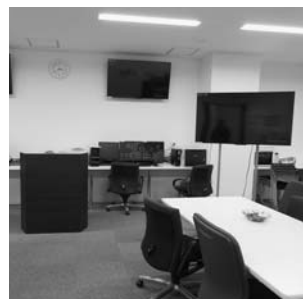
外来診察室は、家族と一緒に受診するケースが多いので、各診察室に家族用のいすを設置、バッグを置く台、ステッキを掛けるところを設けて便宜を図っています。4診体制で、5診目は救急患者用としています。

看護師は現在16人。入院基本料は有床診療所入院基本料1を算定していますが、全員看護師であり基準をはるかに超えた配置になっています。木村看護部長は「病院レベルの診療を行っているのです、当然これくらいのマンパワーは必要になる」と説明します。夜勤体制も現在は2人ですが、重症患者がCCUに入ってしまうと、2人

心臓カテーテル室と  
広いスペースを取った前室



CCUに患者が入ると一般患者の通行を遮断



操作室では画像を  
見ながらカンファレンスや  
ディスカッション



電子カルテを見ながらカンファレンス

青洲に関わる展示



### 看護部理念は

○患者さん一人ひとりに丁寧に対応し、安全・安心できる心のもった看護を実践します

○看護職の使命、責務、倫理観に基づき、チーム医療の中で質の高い看護を提供します

### 基本方針は

1. 患者さんを全人的に捉え、個別的、継続的な看護を実践する
2. 科学的根拠に基づき、物事を発展的に捉え、自律して看護を実践する
3. 急性期医療を担うチームの一員として、チーム医療の推進に努める
4. 地域と連携し継続看護の質を高め、地域医療に貢献する
5. 自律した行動がとれる人間性豊かな看護専門職を育成する

当面の16年度の看護部目標は「他部署と連携し、システムを構築し、安全・効率的に運用する」。病棟はマニュアルの完成、遵守、当クリニックの標準看護ケアの確立（パス）、外来は外来システムの構築—を掲げています。スタッフはそれぞれに医療安全や感染管理に強いなど得意分野を持っており、同診療所にあったルール作り、マニュアル作りを主体的に担当しています。

## 青洲の名に恥じない看護、標準看護ケア、外来システムの確立など目標



夜勤では足りない状況になるため、3人夜勤体制を目指しています。現在は、夜間に緊急でカテーテル治療が必要になった時、木村看護部長と村瀬早苗看護師長（集中ケア認定看護師）、経験値が高い外来看護師の3人でオンコール体制をとってフォローしています。

看護師確保は、応募の問い合わせが多くなってきています。スタッフの教育レベルは高く、集中ケア認定看護師もいるので、循環器看護の経験がない人でも採用、将来的には新卒も採用していきたいと考えています。

近隣の医療機関等からの紹介患者は絶対断らない方針で運営しており、連携病院は後志や胆振を含めて6病院から紹介を受けています。入院患者の半数が地方在住者という時もあると言います。連携医療機関の増加に伴い地域連携室を設置、木村看護部長が室長を兼務して紹介対応しています。

木村看護部長と村瀬看護師長は

開院前に華岡青洲について学び、青洲が語っていることは「我々の思いと一致する」と感銘を受けました。「華岡青洲の名に恥じないよう、目の前にいる患者さん一人ひとりに丁寧な看護を提供したい」という思いはあると言います。8月前半の準備期間に入職してきたスタッフとともに、病院理念を踏まえ看護部の理念をどう謳うか、ステーション会議で話し合いました。色々な思いを持って集まって来たスタッフの思いを大事にしたいと考え、全員にどういう看護をしたいかを書いてもらったところ、皆、木村看護部長、村瀬看護師長と方向性は同じであることを確認。そこから以下のような理念、基本方針を定めました。

当